痛すぎる一敗 ロスタイムに散る

駒澤大学2－3東洋大学

早い時間に失点し、頭を抱える嶋谷　（撮影：河田奈津子）

6 月 16 日　13：50　駒澤大学玉川校舎グラウンド

駒大	（1－2） 2（1－1）	3東洋大

得点者（ｱｼｽﾄ）

[駒]29 分碓井	[東]16 分野崎(馬渡)
[駒]78 分碓井	[東]25 分野崎
	[東]90+5 分オウンゴール

KOMAZAWA	TOUYOU
GK①大石健太(3)	GK①松下理貴(4)
DF⑯大木　暁(2)	DF⑯馬渡和彰(3)
DF④三澤祥馬(4)	DF㊳郡司昌弥(1)
DF㉜嶋谷昇大(1)	DF④市川恵多(4)
DF③田中雄一(3)	DF⑥松本怜大(4)
MF㊴奥田　陸(2)	MF⑳黒須大輔(3)
(85 分㉖若山瞭太(3))	MF⑰石川俊輝(3)
MF⑧碓井鉄平(3)	MF⑩川﨑　諒(4)
MF⑭板倉直紀（2）	(65 分㉔鈴木健士(3))
(53 分⑰小牧成亘(2))	MF⑲年森勝哉(3)
MF⑪湯澤洋介(4)	(83 分㉗川森有真(2))
MF⑨山本大貴（3）	FW⑨三田尚央(3)
FW⑤宮城雅史(4)	FW⑱野崎桂太(4)
(52 分㉛菊池将太（1))	
S　U　B	S　U　B
GK㊱積田景介(1)	GK㊱浅沼優瑠(2)
DF⑳荒井裕介（4）	MF⑦川岸春大(4)
DF㉝柳川剛輝(1)	GK㉑慶徳　優(4)
MF⑲真野直紀（4）	FW㉘平石直人(2)
	FW⑬澤井浩亮(4)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	白須真介

[シュート]7:7 [GK]7:7　[CK] 8:6 [直接 FK]15:25
[間接 FK]1:5　[主審]國吉真吾　[観衆]約 206 人

警告(C)／退場(S)

[駒]30 分宮城雅史(C)	[東]28 分馬渡和彰(C)
[駒]43 分大木　暁(C)	[東]77 分郡司昌弥(C)
[駒]76 分菊池将太(C)	

序盤の２失点が最後まで響く

降りしきる雨の中、迎えた首位・東洋大との一戦。スタイルが大きく異なるチーム同士の首位攻防戦は、互いの持ち味がぶつかり合う熱いゲームとなった。

「入りが悪かった」と碓井が振り返った通り、まずペースを握ったのは東洋大だった。連戦の影響からか出足の鈍い駒大に対し、得意のパス回しで中盤を制圧。押し込まれる展開にいつも通り粘り強く守りたかった駒大だが、１６分にＣＫから野崎に打点の高いヘディングを決められる。さらに２５分、この日疲労のあった若山に代わり起用された奥田の所から簡単に突破され、最後はまたしても野崎にゴールを許してしまう。

あまりにもあっさり２点差とされた駒大は失点直後、円陣を組み直し、もう１度やるべきことを確認。これで動きにキレが出始めると２９分、エリア内で湯澤が倒されてＰＫを獲得する。これを碓井がキーパーの逆を突き、１点差。その後も攻め続け、宮城などがチャンスを迎えたが、決めきれないまま前半を折り返す。

後半に入っても１点を追いかける駒大の勢いが勝る。サイドに小牧、前線に菊池を投入するとセカンドボールを拾えるようになる。クリアされても根気よく拾い続け、何度もクロスを上げてはチャンスを作った。しかし、再三上げたクロスに合わせることは出来ず、時計の針だけが進んでいった。

それでも７８分、田中のパスから左サイドを抜け出した山本がペナルティーエリアに侵入すると相手は思わずファウル。この日２度目のＰＫを獲得する。碓井が今度は最初と逆のコースに決めて同点。これで逆転は時間の問題かと思われた。

ところが、直後に嶋谷が絶好機を逃すとロスタイムだった。前がかりになったところをカウンターで一気にゴール前まで運ばれ、慌てた三澤主将が飛び込み、入れ替わる。同点でも問題ない相手にとって駒大の息の根を止める絶好のチャンスとなり、クロスを上げられると、これが嶋谷の足に当たりゴールの中へ。激しい点の取り合いの末、軍配はアウェイチームに上がった。

前半途中からペースを握り続けただけに、序盤の２失点が悔やまれる。ただ、終わったことを悔やんでいても仕方が無い。次の試合もひたすらに勝利を目指す以外に道はないのである。「差を広げられないようにすれば、後期にチャンスはある」（秋田監督）。１位の座はそこで奪うしかない。

（猪熊脩登）